No.799
栄光

説教・「死ぬなと呼ぶ声」狩野伝道師……1
特集・これまで、そしてこれからのこと……2
定期教会総会報告……5
説教・「聖霊に満たされる」岸牧師……6
伝道師の書き込み…7
牧師の書斎から…7
長老のファイル…8

説教

『死ぬなと呼ぶ声』

エゼキエル書18章25節～32節
コリントの信徒への手紙一15章54節～58節

狩野進之佑

今日わたしたちが共に聞きましたこの言葉は、そもそも18章はじめの言葉がきっかけとなっています。「先祖が酢いぶどうを食べれば 子孫の歯が浮く」（18・2）親のしたことが子に向かう、そういう様子を描いたことわざです。エゼキエルはこのことわざに出てくるような考えを批判しています。

このことわざは当時の流行りの言い回しであったそうです。エゼキエルはイスラエル王国が滅びる中で活躍した預言者ですが、この時代状況が、この言葉を流行らせたのでしょう。祖先の行動が子に降りかかるという思想自体は、旧約聖書において、十戒の中にも出てくるような伝統的な考え方です。しかし、イスラエルが滅びるこの時代にあっては、皮肉として語られたのです。今日の聖書個所にある「主の道は正しくない」という言葉が、おそらく先ほどのことわざとセットになって言われていたでしょう。「主なる神様は『わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代まで問う』なんておっしゃる。けれども、それなら『先祖が酢いぶどうを食べれば 子孫の歯が浮く』なんてことがあるか？　そんなことはないだろう。だから、『主の道は正しくない』」。イスラエルの滅びというどうしようもない理不尽を前にして、神は正義だとか、愛だとか、そういうことが馬鹿馬鹿しくなってしまう。こんな理不尽な目に遭うのだから神は正しくなんてない。そう言いながら諦めて今を生きるしかない。イスラエルが経験した理不尽とはそういうものでしょう。

また一方、このことわざは同時に慰めでもあったのではないかと思います。そう考えなくては人はやっていけないのではないか、そう思うのです。理不尽な滅びに直面して、人は果たしてエゼキエルの言うような言葉によって、やっていけるのでしょうか。むしろだれかに目の前の理不尽の責任を取ってほしいと思うものではないでしょうか。自分たちを導いてきた王様が悪い、今までやってきた政府の政策が悪い。そう言えた方が楽ではないでしょうか。

このエゼキエルの言葉は、実に優しくない言葉です。厳しい言葉です。神など居ない、あるいは神は居たとしても正しくないとうそぶいて、み言葉を皮肉りながら諦めて生きていく生き方を許しません。誰かに責任を押し付けて自分は悪くないと言いながら、誰かを恨みつつ生きていく生き方も許しません。神の前に目をそらすことなく、ただ一人立つことを、私たちに要求するのです。ただ自分と神とのかかわりの中で、背きを捨て、神の前に正しく生き、神を見上げながら生きていくこと。ただそれだけが、理不尽な世の中にあったとしても、本当に歩むべき道、生き方であると、わたしたちに告げるのです。

わたしたちも同じようにこの言葉の前に立たされています。わたしたち一人ひとり、神の前に生きる存在として呼び出されています。ただ、わたしたちに違うところがあるとすれば、私たちは神の前にただ一人で立つものではなくなったということです。わたしたちは神の前に、聖霊の執り成しを受け、キリストと共に立つのです。

主イエスはそのために十字架につけられたのであり、聖霊がわたしたちに与えられたのです。神の前に一人立たねばならないはずのわたしたちは、神の前に立っていられる強さを持ってはいませんでした。しかし「だれの死をも喜ばない」神、「立ち帰って、生きよ」と呼ばわる神は、わたしたちに「正しい主の道」、キリストの道を与えてくださいました。聖霊を豊かに受け、キリストの道を共に歩んでいきましょう。神は今日も仰います。「立ち帰って、生きよ」。

「人生100年時代だ」などと言われ
100年時代を生きるキーワード・生き方などが
色々なところで特集されています。
そうはいっても、私たちは、生かしてくださっているのは
神様であることを知っています。
これまではどんな人生でしたか？
そしてこれからは、どのように歩んでいきたいと願いますか？

これまで、そしてこれからのこと

頼られることの幸せ

高木悦子

幼少時病弱だった私は、慈愛ある両親はじめ皆様から救われながら成長しました。しかし高校時代に徹底的に物事に向かう姿勢が養われ、テニス部で体力も付き、また良き師、良き友を得て、大学は英文科に進み、米国留学をきっかけに、夢への挑戦をしてきました。

我が子が受験の年に、夫が米国南カリフォルニア大学の生体肺移植の臨床研究に医師、看護師、理学療法士を率いて留学する際に、英語と留学経験が役立つならと、2人の子を置いて迷わず随行しました。その地で夫は数々の壁に直面しましたが、頼った先が某コンビニ設立で社会貢献された敬虔なクリスチャンの元に導かれ、私はロサンジェルスの教会で創世記を学び神様を知り、難を越えることができました。その後祈りに支えられながら教会生活、讃美歌、コーラス、書にも打ち込む恵みに浴しました。

私の書道教室には、コロナ禍で登校できない小学生やステイホームの成人の方々がお見えになりました。昨年の教室展では破体書「地の塩　世の光」（写真）を展示しましたが、この書をきっかけに教会学校に通うよう勧められていたお子さんを経堂北教会にお連れすることが出来ました。神様の計り知れない御業に感謝は尽きません。

今、夫はコロナ禍で患者さんと向き合い、余裕のない日々を送っています。祈る私は神様の声に頼みつつ、配信の宣教原稿とライブ礼拝、聖歌隊の讃美歌のガイド演奏で心は落ち着き、夫を支えながら生活しています。

現在も祈りなしには一日も進めません。古希を過ぎてどのような自助、共助で幸せをつかめるかを模索しています。

流れに逆らわない生き方

田中暉通

これまでの人生は3段階に分けられる。学生時代以前、会社員時代と今の年金生活時代である。

サラリーマン以前を総括すると、何を考えていたのか、我ながら呆れてしまった。小学校時代は何を考えていたか記憶がない。普通なら何か目標とか願望はあったろうが思い出せない。強いて言えば、親の転勤により小学校を3度転校していじめられたので、転校しないですむ私立中学へ行きたいと願い、成城学園へ入ったことくらいだろうか。どうやらその時に置かれた環境のせいか、夢中になれるような事柄に熱中する性格らしい。中学、高校では電気部、大学では洋弓部と、部活動中心に過ごし、ろくに勉強しなかった。部活の比率の一部でも勉強に割いていればと今では後悔している。

就職先も安易に親のコネで大同特殊鋼に就職。10か所で仕事をしたが、素直に辞令に従っただけであった。欲が無かったか、要望することが無かったか、自分でもわからない。

中学時代には信濃町教会の日曜学校へ通っていたが、高校になると部活が忙しく欠席しがちになり、会社に入ったら最初の勤務先が電力供給の都合により日曜は出勤。これで教会とは疎遠になってしまった。ずっと気懸かりであったが退職後に教会に復帰した。

会社生活最後は広報を担当、結構楽しく過ごしていたが、定年2年前に転勤打診があり、今更新しい仕事をやりたくなくて退職し、隠居生活に。そこでやっと自分のために時間を使える生活を送れるようになった。それまではどうも部活のため、仕事のためが中心であったように思う。

これまでの人生、何も考えず過ごしたわりには満足している。これからの人生は何とか体力現状維持が望みだ。趣味のスキー、ゴルフが後何年出来るか不安だ。それと毎年楽しみにしているクルーズ。この2年コロナ禍で中止。元気なうちに早く参加したい。

振り返り

小川徳子

これまでの人生で経験したことのないコロナ禍の状況が続き、まだまだゴールが見えず不安やしんどさが続く中、今までどんな人生だったのか…自分のことをみつめ直す機会が与えられ振り返ってみました。

生まれた時からクリスチャンホームで育った私は、いつもどんな状況でも神様が道を備えていてくださり見守っていてくださる…という思いが常にあり、何か決断する時の基準になったり、私にとっての支えとなっていて、悲しいこと、怒りたくなるようなこと、辛いことや困難なことにぶつかった時、何とか乗りこえ前に進んでこられたように感じています。

逃げ出したくなることや納得のいかないこと…いろいろ抱えながらも、今自分がこの状況にあるのは必ず何か意味のあることだと信じ歩んできました。直面している時はわからなかったり、自分にとって好ましくない状況であっても、後になり、こういうことだったのか…ということもありました。なるべくしてこうなったんだと…。

自分がなにげなく送っていた日常生活は、普通のことだと思っていましたが、様々な経験をしていくうちに、自分は恵まれた環境で歩むことができていると改めて気付かされました。また、周囲の方たちにも支えられて、ラッキーなんだなーと実感しています。

神様に生かされ人生を歩んでいるのですが、必ず死がやってきます。もし自分の寿命を知ることができたら知りたいですか？　もし誕生した時から寿命がわかっている人生だったらどうでしょうか？今までとは違った選択をしていたかもしれません。

これからの人生も寿命も、神のみぞ知る…ですが、与えられている時を大切にして目の前の今と向き合い、祈り、神様に委ね、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

四半の轍

諸橋鷹広

1921年の平均寿命は、男女共に42～43歳でした。100年後の2021年の今、平均寿命は男性81歳、女性87歳です。100年かけて倍になりました。医療技術の発展、食生活をはじめとする生活習慣の高度化など様々な要因があります。私は今年で26歳を迎えますから、人生100年時代の4分の1を終えたことになります。まだまだたくさんのことにチャレンジできます。ここまで、主の守りの中で歩めたことに感謝です。

今春、社会人となり3年目、教習所の教官から違う部署に移り、靴紐を結び直したところです。今回原稿の依頼が来て、25年の歩みを改めて振り返りました。幼少の頃から聖書や讃美歌に触れていて、産まれた瞬間からすでに主の道を歩んでいたことに気づきます。御心にかなわない放蕩息子だった時期も含め、それは間違いなく主の道でした。それにもかかわらず整えられていた主の道を、右へ左へ行ったり来たり、フラフラと危なっかしく走っていました。右にウィンカーを出しても、ハンドルを左に切ってしまいます。アクセルを踏み続け、速度の調整をしていませんでした。安全確認を怠り、自分の都合を優先する歩みであったと反省するばかりです。しかし今、助手席には共に歩む、愛する人がいます。自分勝手はいけません。その愛する人とのこれからを見据えて、ハンドルを正しく握る必要があります。

昨今はコロナ禍により、青年会の活動も制約され、青年伝道も色々と配慮することがあり、例年通りにはいきません。しかし、その中でも耐え忍び、今できることを考える必要があります。工夫を凝らし、青年会も「with コロナ」で進むのです。その一員として教会を、そして青年会を支えていくことがこれからの私の歩みです。きちんとシートベルトを締め、後方確認もバッチリです。残り4分の3のルートを安全に、また大胆に発進していこうと思います。

また教会の門をくぐり

荒井貴代子

私が初めて教会に伺ったのは30年も前のことでした。当時社会は高度成長へと活発な動きで進んでいました。主婦であった私は何か遅れをとっているような気分でした。

そんな中で子どもの学校のお手伝い、家庭集会等、誘われるまま参加しました。そして聖書を学ぶ機会を与えられました。

贖い、赦し、愛、主イエスの存在。この精神世界に強く惹かれました。しかしながら教会の奉仕活動や行事と家庭を両立させ、ついていくことが難しく、挫折を感じながら次第に遠のいていきました。

失われた時間ではありましたが、キリスト教に関わる講座、文学作品、歴史、音楽に積極的に触れようと努めました。アッシジや五島列島の教会群にも行ってみました。マタイ受難曲も2年半かけて歌いました。

時代を越えて様々な出来事の中に生きた人々の姿、どんなことを思っていたのだろうと、今コロナ禍に喘ぐ私たちと重なります。当然、嫌でも自分と向き合うこととなり、自己の未熟さに悩み、宿命的とも言うべき人間の弱さを思いました。

イエスを追い求める姿は野に咲く一輪の花の様でありたい、と井上洋治さんは言っておられます。ウオーキングの時、道端にへばりつくように咲いているどくだみやたんぽぽが、何故か鮮やかに映ります。

「ほめられもせず」「くにもされず」という宮澤賢治の詩の一部が好きです。

中西さんに新百合ヶ丘の小田急OXでよくお会いし、お話しているうちに、「聖歌隊で一緒に歌わない？」と誘っていただきました。そして、また、そっと教会の門をくぐりました。

今朝もただ、黙って微笑むイエス様を仰ぎ、讃美歌を歌っています。

人生を振り返って 保育者として生かされて

千葉一恵

私は70歳となり、この春、社会福祉法人東京育成園オリーブ保育園園長の任を辞し、40年余りの保育者人生にピリオドを打ちました。かねてより、この歳を限りに退くため、後を委ねられる者を、と法人を担う夫と共に祈ってまいりました。紆余曲折ありましたが年度末ぎりぎりに、神様は後継者を備えてくださいました。保育者人生スタートの時も、やはり年度ぎりぎりにコドモの園幼稚園に導かれ、終わりの時も同じ法人の保育園となったこと、すべてが神様の計画・導きと深く思わされ感謝する私なのです。

進路決定のときも、神様からいただいた運命だったと感じざるを得ません。未信者だった私は公立幼稚園を志望し、配属決定通知を待つ数日前の1月、コドモの園幼稚園から急募が出され、何故か私は面接に導かれ保育者としての第1歩を踏み出しました。これは運命的な出来事だったと言えるでしょう。その後、受洗の恵みもいただき、主の僕として働こうとする私に神様は寄り添ってくださり、夫の勤務地に合わせて転職した5園と1施設すべてがキリスト教主義の園で本当に感謝でした。

保育者として生きると決めたのは私自身と思っていたけれど、本当は「あなたの道はこちら」と導かれ、私が人生を生きてきたではなく、神様が生かしてくださっていたのだと、この振り返りの時、確信するのです。「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るように（略）」（ヨハネ15・16）

沢山の幼子と過ごした日々、保護者、職員、多くの方々との出会いがありました。それは保育者として生きてゆく糧となり、様々の試みを乗り越える力となりました。神様の愛を語り子どもたちと♪主イエスと共に歩きましょう♪と賛美して過ごさせていただいた保育者人生に心から感謝して。

定期教会総会報告

2021年度教会総会は、コロナ禍で緊急事態宣言発出当日の4月25日のタイミングで、しかも出席者が定足数丁度の67名という奇跡的な状況のもと、延期もなく無事に開会することができました。正に聖霊の導き、皆さんのご協力の賜物と言わざるを得ません。

さて今回の教会総会議事「2021年度の計画の件」で報告された通り、岸俊彦牧師は来年3月に現4年の任期満了となり、任期が更新されれば70歳となる年の翌年2025年3月末で定年となります。つまり定年までにあと4年ということです。コロナ禍のため1年任期延長となりましたが、来年5月には東京教区総会議長の責任をはじめ、全ての役職から退かれ、経堂北教会の伝道・牧会に専念されます。これは後任の牧師を招聘し、引き継ぎを行なって2025年3月を迎える道筋を円滑に進めるためにはありがたいご決断です。他方で、あっという間に経ってしまう時間かとも思われます。この当教会にとってとても重要な人事に神様の御心が行われるよう教会全体で祈りを合わせて進めていきたいと思います。どうぞお祈りにお覚えください。長老会は今年度から後任の牧師招聘の準備にとりかかります。

狩野進之佑伝道師もこの秋正教師試験受験となります。無事合格して按手を受け、改めて経堂北教会の牧師に就任し、来年4月から牧師として次の教会に招聘されるよう準備を進めます。コロナ禍が収束して教勢が回復すれば、狩野伝道師の後も牧師・伝道師の体制で伝道・牧会にあたることができればと考える中、こちらも経堂北教会にとっても大きな決断となるかと思います。

教会財政も、ご報告があったようにコロナ禍で教勢が極端に落ちているにも関わらず、皆さんのご協力、財務委員会の適切な財務執行により収支が安定して推移しています。こちらも感謝の念に堪えません。まだまだコロナ禍による混乱は続きそうですが、心を一つにしてこれからも様々な課題に取り組んでいきたいと思います。

（大西　順）

説教

『聖霊に満たされる』

イザヤ書37章14節～20節
使徒言行録4章23節～31節

岸　俊彦

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」（3・6）。生まれながら足の不自由だった男を、主イエスの御名によってペトロとヨハネが立ち上がらせました。エルサレム神殿の美しい門での出来事でした。しかし、エルサレムの権力者たちは気に入りませんでした。二人は捕らえられ取り調べられました。二人は、主イエスの御名によってこそ救われる（4・12）と正々堂々と証言しました。結局主の御名によって話したり、教えたりしないように脅されて釈放されました。

二人は釈放後、仲間の所に行って全てのことを報告しました。主の御名のもとに集められていた仲間です。最高法院で取り調べを受けた二人のために、主の御名によって祈っていた仲間です。二人の報告を聞いて、信仰によって結ばれた兄弟姉妹であることをお互い喜びあったことでしょう。主の御名によって彼らは一つであることを確信したことでしょう。

ペトロとヨハネ、そして、その仲間たちが心を一つにして声を上げて祈りました。「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください」（29節）。

エルサレム教会の祈りは、迫害に対して神の加護を祈ったり、迫害する者を呪う祈りではありませんでした。復活のキリストの証人として大胆に神の言葉を語ることができるようにとの祈りでした。御心に従わず「空しいこと」を企て、この地上で一つになっている者たちにも必要なのは御言葉です。

天地創造の主、歴史の主がただ一人の御子イエス・キリストを通して救いの計画を明らかにしてくださいました。御子イエス・キリストを信じ、御名によって祈り、御名によって生きることこそ、主の祈りを受け継ぎ、主の祝福に与り、主の恵みを分かちあうことです。

私たちが与っている主の救いと祝福に、一人でも多くの仲間と与りたいのです。主にあって共に喜び、共に泣く者でありたいのです。そこに、神の必然と御計画とがあります。私たちの使命があります。生き甲斐があります。私たちの幸いな務めです。

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き」ました（31節）。祈りは天に届きました。目には見えない主なる神が、その祈りに応えて、主の御名によって集まる場所を揺り動かしてくださいました。教会の祈りは聞き届けられました。ペトロとヨハネだけではなく共に祈る教会の仲間が、今や、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語り出しました。

この困難な状況から救われるために私たちができることは、聖霊に満たされ、大胆に神の言葉を語ることです。私たちが心を一つにして、神に向かって声をあげるべきことは、私たち教会の仲間が主イエス・キリストの福音を、恐れることなくこの世界に正々堂々と語ることです。そのために、主の御名のもとに一つとなって祈りを合わせることです。

聖霊に満たされ、御言葉によって揺り動かされた私たちの心の振動は、必ず、世界に広がることでしょう。「キリストの復活の力を知り、キリストの苦しみにあずかり、時が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝えることができますように」（2テモテ4・2）と心から祈ります。御言葉にこそ、私たちが互いの重荷を担い、救うための力があります。

「主よ、今こそコロナ禍の脅威に目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし、聖なる僕イエスの名によって、コロナ感染拡大が収束し、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください」。

（聖霊降臨日礼拝説教）

伝道師の書き込み

先月と同じく正教師試験のことで続いてしまいますが、5月10日に東京神学大学の同級生たちと勉強会の時を持ちました。通常であれば全員で集まって、かつては二日かけて行われていたと聞いておりますが、残念ながら今回はリモートでの開催となりました。久しぶりに同級生たちの顔を見る機会でもありました。今年度は特にリモート開催となりましたので、家庭で参加される方も多く、この3年で生まれた同級生の子どもたちの顔を見る機会にもなってしまいました。任地などの都合もあって卒業を境に結婚ラッシュ（わたしの同級生は5人くらい続きました）があるのですが、それから3年。当然子どもが居ておかしくはないのですが、なんだか勝手に感慨深い気持ちになりました。

閑話休題。勉強会については神学校の先生方に、新約・旧約・組織・歴史神学の4教科の試験の傾向と対策について話をしていただきました。8時30分から15時30分まで、休憩含めて7時間ほどの勉強会でしたが、ずいぶん久しぶりに勉強したような気がします。というより、学生時代よりも聞くことが少し苦手になっているように感じます。同じ時間でも、マイペースでする勉強とは随分違うものだったのだな、と今更ながら気づかされます。準備のための示唆と参考文献、ついでにあまり進んでいなかった試験準備に発破をいただいて終了となりました。

また、ついでの話になってしまいますが、リモート環境整備のために何人かの同級生が神学校まで行ったようで、（教会でも献金先として記載していますが）大学キャンパス整備の様子なども写真で教えてくれました。教授宅・学生寮は完成したようです。私の在学中はどちらもボロボロでした――特に教授宅はここに教授を住ませて良いのかと思う酷さでした――が、随分と奇麗なものになったようです。寮にエアコンが付いたときもそうでしたが、環境の改善は本当にありがたいものです。

牧師の書斎から

昨年はこの時期、何とか東京教区総会を対面で実施できるよう準備していました。実際の準備にあたる事務方にも迷惑をかけました。結局2度の書面開催による教区総会となり、7月に入ってようやく2020年度の教区組織が整いました。「三密」を避け、感染防止を徹底できる会場の確保も準備もできなかったのですから、書面開催はやむをえないことでした。

今年度は状況が一層厳しく、昨年度の経験がありましたから、当初から教区総会は書面開催としました。今は書面によってその賛否を問うている最中です。同様に三役も常置委員も選挙をせず、任期1年延長の賛否を問うています。本来なら集まって一つひとつ議論して進めていくべきことですが、集まって議論できない想定外の緊急事態です。

書面で承認されれば、教区総会議長の任期は来年5月まで延長されます。すでに3期6年となるので退任することを昨年公にしていました。「栄光」3月号で触れた家族の事情もあり、任期延長の場合も辞任すると伝えていました。議長が辞任した場合、副議長が議長に就任します。副議長と書記は常置委員から選挙されます。今のコロナ禍の状況で、もし今年度第1回の常置委員会で選挙となったら混乱を招くと、後任になる副議長、そして書記から説得されました。また、議長の働きは二人で補うとまで言われました。

実は今年度議長退任については長老会でも報告していました。退任、辞任を口にしながら辞めないのでは何とも不様です。役にしがみついていると取られるのも情けないことです。

しかし、このコロナ禍で自分の考えや都合を押し通すこともできません。誰もがそれぞれ忍耐しています。祈り合い、助け合っていかなければなりません。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い…すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」。

（1コリント13・4～7）

長老のファイル

昨年4月は、緊急事態宣言による自粛から、礼拝の出席者も平均33名という状態でした。この影響で教会総会が2ヶ月延期され、暫定的に長老の任期延長で対応しましたが、本年は予定通り、4月28日に開かれました。今年4月の出席者は平均69名となり、教会総会でも定足数を満たせたことは、喜ばしい限りです。

昨年は未知のウイルスに対する不安が多く、2ヶ月間は原則、出勤をしないように指示を受け、その後も通勤電車がガラガラだったことを思い出します。今は緊急事態宣言の中にはあるものの、ワクチンも開発され、徐々に、そして慎重ではありますが、コロナ対策をしながらも、日常の生活を取り戻そうという動きを感じます。

教会総会で報告させていただきましたが、この1年、皆様には献金で教会の働きを支えていただき、ありがとうございました。礼拝に出席できない教会員の方々も、月定献金、特別献金を郵便振替や銀行振込等でお送りくださり、ライブ配信感謝を含む感謝献金にもご協力いただきました。教会活動が抑制されたため、伝道・集会費や教会学校費等の支出は減りましたが、人件費は固定であり、また、こういう状況ゆえに対外援助も欠かせません。昨年度は結果として収支は黒字となりましたが、本年度の予算は赤字予算を組んでおります。

無駄な支出は抑える必要があるものの、教会活動の源である伝道費は維持する必要があります。また、突然の水漏れやガス漏れ等の修繕の他、古くなった暖房設備の故障時の入替えの可能性もあり、そのための予算は組んでおく必要があります。今期の増加理由の一つはそういった設備交換の資金ですので、ご理解のほど、お願いいたします。

今年は西日本の梅雨入りも早く、長梅雨になりそうです。コロナの心配もありますから、皆様くれぐれもお体にお気をつけください。

（門田浩一郎）

個人消息

掲示板

○教会初夏の集い
7月11日（日）午前10：15～午後1：00
説教・講演　種房正勝牧師、種房惇子牧師
（上野教会）

○栄光7月号（800号）は、7月11日発行となります。

編集後記

▽今年度、編集委員長を務めることになりました。未熟者ですがどうぞよろしくお願いいたします。（酒井）

「栄　光」2021年6月号
日本基督教団　経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電 話 ：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧 師 ：岸　俊彦　　伝道師：狩野進之佑
編 集 ：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP　：http://kyodokita.life.coocan.jp